

2018年1月12日

朝日放送株式会社

朝日放送株式会社 協阪聰史社長年頭挨拶

2018年1月4日、朝日放送株式会社において新年祝詞会が行われました。協阪聰史社長による、朝日放送社員・朝日放送グループ社員に向けた年頭挨拶の骨子は以下の通りです。

朝日放送グループのみなさん、構内で働く全てのみなさん、あけましておめでとうございます。年末年始の休暇でリフレッシュされ、また新たな気持ちで本日を迎えられたことと思います。また、お仕事でお休みになれなかったみなさんは、このあと、しっかり休んで、英気を養っていただきたいと思います。

本日は、新年恒例の財界フォーラムの生放送に立ち合いました。番組テーマは「飛躍への扉は開かれるか」ということで、主にインバウンドと大阪万博実現について、大いに議論されました。中でも11月に開催地が決定する、2025年の万博は、今年関西最大の関心事です。大阪で開催となれば、関西のみならず、全国の経済に影響を及ぼし、さらに外国人観光客を呼び込む、起爆剤となるでしょう。誘致の鍵は、地元の盛り上がりということです。ABCとしても誘致活動をバックアップし、大阪万博実現にむけ、最大限の応援をしていきたいと考えています。

さて、気になる正月3が日のテレビ視聴率が手元に届いています。今年も好調な滑り出しとなりました。3が日視聴率三冠、2013年以来5年ぶりの快挙です。まことに幸先の良いスタートになりました。2017年の年間テレビ視聴率も出ています。全日同率2位、ゴールデン同率2位、プライム2位、プライム2が1位と終盤追い上げましたが、まだまだトップに及ばずというところです。3が日の好ダッシュをキープして、1月から3月で巻き返し、年度視聴率において、トップとの差を縮めて下さい。ラジオにおいても12月の聴取率調査の結果、大いに期待しております。

現行の中期経営計画は最終年度、最終コーナーです。この3年間は、「成長のための経営基盤を整備する」期間と位置づけてきました。放送事業に注力しながら、成長が期待できるコンテンツ関連事業、海外分野を強化するため、積極的な投資を行ってきました。

一方で戦略目標として、視聴率トップ、聴取率トップ、売上げトップを掲げてきましたが、ご承知の通り現在のところ数値目標達成は厳しい状態です。

最後まであきらめずに、少しでも目標に近づくよう、ラストスパートをかける3ヶ月にしていきたいと思います。そして戦略目標をもう一度見直し、この3年間を検証し、新しい中期経営計画に強く繋げていくための準備期間として下さい。

つづいて皆さんの現場での「働き方」についてお話をします。さきほども申し上げましたが、今年はホールディングス体制への移行にともない、大きく舵を切る一年です。放送局が置かれている環境は、決して見通し良好とは言えません。変化という荒波を乗り切るには気力・体力が必要です。ものづくり現場には余裕が必要です。現在全社で進めている「ワーク・イノベーション・プロジェクト」は旧来の業務を見直し、職場の余裕を生み出すことで、忙しい職場において、創造性の高い、健全なものづくりを実現することを目的としています。全社調査で、いくつかの課題が明らかになっています。対処できることからただちに改善を始めていきます。

改善すべき課題については、旧来の仕事の流れにこだわらず、一度頭の中をリセットする勇気を持って、取り組んで下さい。今までの常識を捨てるくらいの思い切りが必要です。これはしっかりとお願いします。

最後に、今年は戌年です。戌年生まれには、ロングセラー商品が多いという話です。新しい朝日放送グループも戌年の船出となります。息長く、ファンの方々に愛される放送局・企業グループとなるために、皆さんとともに記念すべき第一歩を漕ぎ出し、グループの飛躍へとつながる、歴史に残る1年としたいと考えています。

今年も皆さんとご家族の健康とご多幸を心からお祈りし、新年のご挨拶といたします。ご清聴有難うございました。